

Sweets



卷頭特集

地域に眠る
チカラを結集!



tea

発表会で紹介された商品。「お茶の濃さを星印で表現したらどうか」など、活発に意見を交換しました

「おいしい」でえらばれる八百津へ

八百津町と聞いて、どんなイメージを思い浮かべるでしょうか。

第二次世界大戦中、「命のビザ」の発行で数多くのユダヤ人難民を救った杉原千畝。

全国から愛好家が訪れるほど人気で、現在リニューアルが進む丸山ダムを想像する人もいるかもしれません。

今まで知られていなかった山村エリアに光を当てようと、「八百津町山村活性化支援事業」が昨年度からスタート。

本格的に動き始めようとしている今年度、その第一歩となる事業内容の説明会を訪ねました。



6月に開催された新特産品の発表会兼説明会では、最後に参加者全員が円になって座談会を実施。和気あいあいとした雰囲気の中で、説明会や試食で印象に残ったことや自分の仕事の特徴、今後の目標を一人ずつ話しました

久田見・福地・湖南

可能性を秘めた3エリア

農林水産省による「農山漁村振興交付金」を活用し、新たにスポットを当てたのは、八百津町の中心市街地から東に広がる3地区です。山村振興法に基づき指定された振興山村ですが、これまで観光マップでは省略されがちでした。

久田見は標高約520メートルの高原地にあり、信州や飛騨に向かう飛騨街道の一小宿として栄えたエリアです。八百津町一の高さを誇る見行山があり、地域住民の有志による「福地いろどりむら」をはじめ、まちおこし活動に積極的。そして湖南は、地元の新鮮野菜を低価格で購入できる「しおなみ山の直売所」が人気を集めています。

この3地区に眠っている地域資源の磨きあげや、新たな特産品の開発などを通じて地域の潜在能力を引き出し、過疎化が進む地域の活性化だけでなく、所得・雇用の増大を図ります。

目指すのは『おいしい』でえらばれる八百津。「おいしい」とは、味覚に関する評価だけではありません。八百津町に心惹かれる価値観の総称を指し、「八百津のおいしさ」でいっぱいあります。

大学にも協力を募り、1泊2日の合宿として現地調査に訪れた岐阜大学、名古屋造形大学の学生も加わりました。岐阜大学からは、学生3人が参加。岐阜大学の大宮康一准教授は、「ワークショップだけでなく、各地を見学して、茶摘みや製茶など、貴重な経験ができました」と振り返ります。

岐阜大学から、学生3人が参加。岐阜大学の大宮康一准教授は、「ワークショップだけでなく、各地を見学して、茶摘みや製茶など、貴重な経験ができました」と振り返ります。

「おいしい」＝八百津町に心惹かれる価値の総称



まち楽房有限公司 代表取締役
加藤武志さん
コミュニケーションデザイナー。「対話から創造へ」をテーマに各地で活動中



岐阜大学地域協学センター
准教授
大宮康一さん
専門分野は言語学と、アイスランド語です



名古屋造形大学 学部長
グラフィックデザイン教授
東仲雅明さん
シャープ株式会社デザイン部門に勤務していた経歴を持ちます



株式会社POUSSE 代表
武藤貴子さん
2015年から3年間、地域おこし協力隊として活動していました

い『物』『事』『人』『風景』『歴史』正しく伝えて選ばれる八百津を目指そう」と目標を掲げました。地域の「おいしい」魅力をわかりやすく発信して、繰り返し訪れてもらうのが目的です。

外部の協力を得て地域の力を結集
準備期間となつた昨年度は、

町内・外から応募を募り、ワクショップ「山村エリアからおつを考へる」を6回開催。3地区の魅力を伝えるキャラクターコピーや特産品のアイデアを考えるなど、地域への理解を深めました。ファシリテーターを務めたまち楽房有限公司の加藤武志さんは、「地域を越えて、たくさんの人が参加してくれました。ワ

八百津町ではお茶をはじめ、標高の高さを生かして良質な農作物がつくられています。ブランド品としてまずは地元で認識を高めると同時に、品質の向上を図ります。ブランド品として人気が高まれば、生産者のやりがいづくりや、次の担い手の確保にもつながると思っています



潮南 しおなみ山の直売所
柘植靖子店長

福地 いろどりむら
葛生良一代表

久田見 八百津町製茶組合
山田征史さん



想い”で生まれたつながりが、このまちを大きく動かそがうとしています。

ワークショップを通して、生まれた人の縁が一番の成果」と答えてくれました。

大学にも協力を募り、1泊2日の合宿として現地調査に

訪れた岐阜大学、名古屋造形

大学の学生も加わりました。

岐阜大学からは、学生3人が

参加。岐阜大学の大宮康一准教授は、「ワークショップだけではなく、各地を見学して、茶摘みや製茶など、貴重な経験ができました」と振り返ります。

コース、学年を越えて履修できる「八百津町山村エリアデザインプロジェクト」を立ち上げた名古屋造形大学から8人が参加。この合宿では、8人が参加。この合宿で得た学びを元にマップを作成し、「おいしい」食べ物・絶景・体験をキーワードに、おすすめのスポットを紹介しました。

名古屋造形大学の東仲雅明教

授は、「合宿を通して感じたリアルな空気感を、デザインに落とし込みました」とことだわりを教えてくれました。

こうした活動を発信するの最新情報を届ける場として、ウェブショッピング「YAOTSU MALL」をオープン。担当する株式会社POUSSはもちろん、観光や新商品の情報など、八百津町に関する情報はもちろん、観光や新商品の情報などを届ける場として、U EBA MALL」をオープン。Eの武藤貴子さんは、「山村エリアが3地区で構成されると一目でわかるよう、トコロ画面を工夫しました。元々山で分断されていた山村エリア。それぞれ独自の文化がありながらも事業者と協力した新商品開発、店舗を巡ってシリアス画面を見せます。笑みを見せて、シリアス画面を見せます。

PRデザインの制作は、マップづくりを行った名古屋造形大学が引き続き担当します。YAOTSU MALLではさらに情報を充実させ、八百津町の現在をリアルタイムで発信していきます。ワークショップは、「やおつ山村みらい塾」と名称を変更。アイデアの出し合いながら、実際に行動へ移す段階へステップアップし、地域リーダーの育成を目指します。次回開催は8月8日(木)で、参加者同士アイデアを持ち寄り、トライアルチームを結成する予定です。

事業が終了するまであと1年半。山村エリアに住む人に関わる人、応援する人たちが交流してきた人間関係、信頼関係をきっかけに、一人ひとりの活動の実現と、活動を継続していく土台づくりを見据えているのです。

説明会では終了後も会場を去らず、興味を持つ人同士会話を弾む姿があちこちで見られました。「まちづくりに貢献したい」。八百津をもっと盛り上げたい。そんな熱い想い”で生まれたつながりが、このまちを大きく動かそがうとしています。

PRデザインの制作は、マップづくりを行った名古屋造形大学が引き続き担当します。YAOTSU MALLではさらに情報を充実させ、八百津町の現在をリアルタイムで発信していきます。ワークショップは、「やおつ山村みらい塾」と名称を変更。アイデアの出し合いながら、実際に行動へ移す段階へステップアップし、地域リーダーの育成を目指します。次回開催は8月8日(木)で、参加者同士アイデアを持ち寄り、トライアルチームを結成する予定です。

事業が終了するまであと1年半。山村エリアに住む人に関わる人、応援する人たちが交流してきた人間関係、信頼関係をきっかけに、一人ひとりの活動の実現と、活動を継続していく土台づくりを見据えているのです。

説明会では終了後も会場を去らず、興味を持つ人同士会話を弾む姿があちこちで見られました。「まちづくりに貢献したい」。八百津をもっと盛り上げたい。そんな熱い

